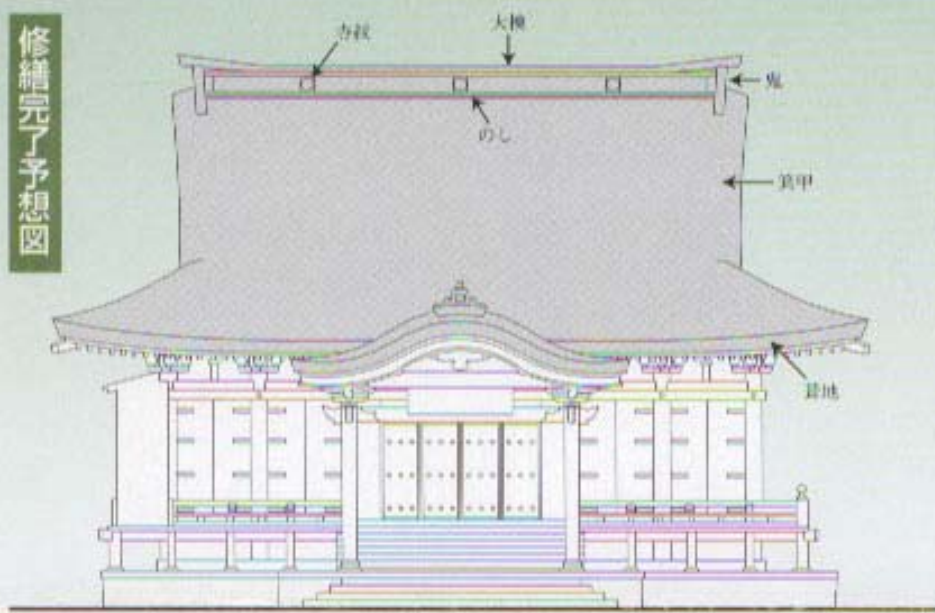


修繕完了予想図



昭和6年建立当初の本堂
 「地下納骨堂おぼえていますか？」



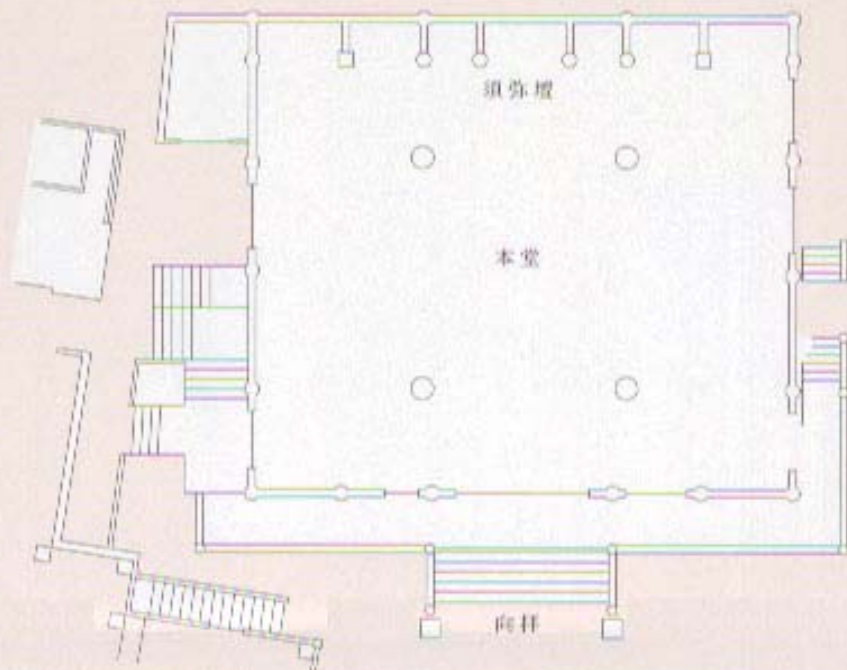
東園寺再建趣意書
 「～吾塩釜に雄健ノ建築美を表現シ
 併せて史蹟ノ再興、町美ノ発達ヲ希ス」

既報の通り本年五月の大回向終了後より本堂の大修繕が実施されます。当山の本堂は昭和六年建立以来、太平洋戦争時の焼夷弾の被弾、宮城県沖地震、そして先の三陸地震など幾多の自然災害を経て、抜本的な修繕の必要に迫られてまいりました。また今回の修繕におきましては不評であった大庫裡連結部の改善、地下教化センター利用促進の為の改修なども併せて実施され、本年十一月には装いも新たに皆様のご参拝を迎えることが出来るかと存じます。修繕期間は大書院、中書院を仮本堂として使用し、法務等には支障の無きよう勤めていく所存ではありますが、何分手狭となりますので、檀信徒各位のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

本堂修繕 平成十六年五月より開始



本堂庫裡連結部より本堂から直接大書院に



本堂と庫裡の 通路の改善

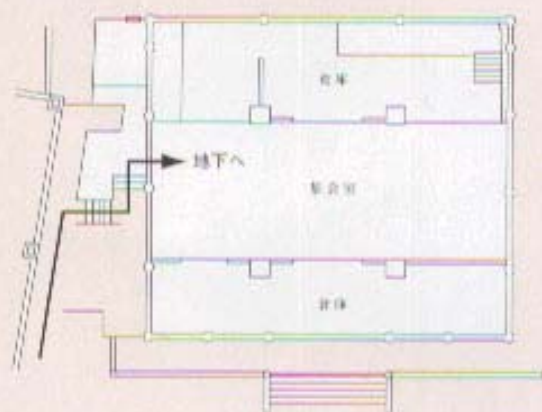
これまでは迷路のようで段差も急であった本堂と庫裡の連結部でしたが、今回の改修では図のように通路が広くなり、勾配もやや緩やかになります。また、これまでは本堂より一度庫裡一階に戻らなければ二階大書院には行けませんでしたが、今回新たに通路を設け、移動の便を図りました。

こんなところが変わります。

前号では主に耐震強化を目的とする修繕内容を紹介しましたが、今回は間取りや内外装の修繕についてご報告申し上げます。

教化センターの使い道

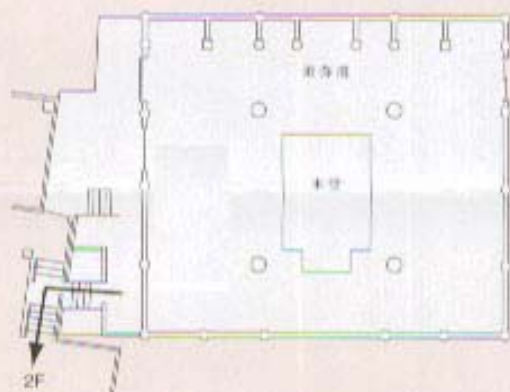
昭和六十三年に大庫裡が完成するまでは、法事席として大活躍していた本堂地下教化センターですが、庫裡の完成により外部からの出入口が無くなり、使用の機会を失っていました。今回の修繕では庫裡との通路を新たに設け、葬儀の際の待合、椅子式の法事席、通夜会場、坐禅堂として活用できるように内装を改めます。



教化センターは庫裡一階からの出入りが可能になります。

本堂の床暖房

天井の高い本堂は厳寒期にはいくら暖房を強くしても、なかなか温まりませんでした。本来本堂は修行の場ですので寒くて一行に構わないのですが、当山は市内の檀信徒の皆さんには葬儀に関して本堂の使用を義務付けており、年々便利になる葬儀会館に比べられると、当然ながら極寒の本堂は葬儀会葬者の批判的でありました。元来



本堂脇には佛具庫が設置されます。

会葬者は遺族とともに故人の為に修行をなすべく葬儀に参加するので、極寒の本堂で法要をなすのは、功德に功德を重ねる善行であると自身は信じているのですが、さりとて価値観の変移というもの無視し、寺での葬儀という本来の姿が、徒に貶められるのもまた本意ではありません。そこで今回は床暖房をとり入れ、本堂の居住性を高め、参拝者が法要に集中できる環境を作りたいと思います。

本山団参

苔寺



妙心寺微妙殿において

去る11月12日より2泊3日の日程で大本山妙心寺に参拝してまいりました。本年も11月頃に京都奈良を中心に実施の予定です。是非ご参加ください。

大覚寺にて

大覚寺にて

マラソンベンチプレス大会ルール

競技は競技者本人の体重のバーベルを何回挙上できるかによって競われる。



不動堂大祭



別院不動堂の大祭が晴天のもと厳修されました。法要後の芋煮会では青年部によりけんちん汁や牛タンが振舞われました。またザゼンクラブ会員によるマラソンベンチプレス大会も併催され、遅刻してきた村岡さんが優勝！体重増加により参加選手中最重量のバーベルに挑んだ住職は2位でした。

危険樹木伐採



昨年10月境内幕地不動堂側の危険樹木の伐採を行いました。

成道会



お釈迦様のお悟りをお慶びする成道会が去る12月6日、役員、詠歌部会員、法話会員、坐禅会員、青松会会員によって開催されました。尚、当日は墨蹟展も併催されました。



十二月三十一日午後十一時三十分より除夜法要が営まれました。法要後には青年部有志の奉仕により、年越しそばとおでん、甘酒が振舞われました。本年は二百五十名以上の方々が、大鐘にそれぞれの思いをこめて新しい年を迎えられました。尚おでんは藤水野水産様に提供していただきました。紙面を借りて心より御礼申し上げます。



除夜法要



焼香の手順



①席を立ち直接真前に向かい焼香親族や他の参拝者に礼をすることは不要である。



②香炉から二歩歩身ははずして合掌礼拝次の参拝者に席を譲る

「コラ」飯にお箸を立てるんじゃないの！縁起でもない。」子供のころにこんな怒られかたをされた方も多いと思います。葬儀の風習は様々ですが、全国的な風習としてあ

だんご

いっぱい飯

焼香



③後ろから見たところ

げられるのはこの一膳飯ではないでしょうか？一膳飯（塩釜周辺では「いっばいめし」）は魂呼びの儀礼のなごりとされるものです。日本で行われる葬儀は大まかにわけて「死者をおそれ、再び帰ってこないことを願う」「営まれるもの」「死者の復活（蘇生）を願う」「死者の御霊を呼び寄せるためのもの」「死者を尊び、速やかに浄土への再生を願うもの」「続けて不幸が起こらぬよう祈願するもの」を目的として行われ、起源が仏教思想に由来してないものも数多くあります。一膳飯はこのなかの死者の蘇生を願う行事の範疇に含まれると考えられます。つまり「山盛りのご飯を食べにこの世に戻ってきてください」という意味があるのです。箸を立てるといふことは、「あなただけのものですよ。」という目印の意味合いであると考えられます。

次に枕だんごですが、珍説奇説の多い中で、仏教的には涅槃経に基づく説が有力です。これはお釈迦様がいよいよ最期を迎えようとしたとき東方の国より、香飯（だんご）が届けられました。お釈迦様はこれを辞退されました。ところが王の命を受けてきた家臣はこのまま帰国すればその命に叛くことになる。そこでこの家臣はお釈迦様の死後に香飯を供え帰国したというのです。また別の説には、人はみな死の直後に身体の四十九箇所に釘を打たれる。団子を供養

することにより釘が団子に突き刺さり死者の苦しみを救うことが出来るというのがあります。この説は意外に全国に流通している説であります。また死出の旅の食料であるというのも良く聞かれるところです。

お供え物の最たるものであるお香は、体に香を塗る塗香と、香を焚く焼香の二種類の供え方があり、塗香は持戒、焼香は精進を意味します。塗香は元来、佛様に對面する際に、自身の体臭を消すために使用されたものと考えられます。塗香は現在真言宗がこれを重んじ、法要の前に導師が手に塗る等して、心身を浄めるそうです。一方、お香を焚くということは、堂内の空気を清浄にするという意味が有力ですが、お香の煙が虚空に消えることから、御霊がこれを食すと考えられたものもあるようです。これは死者のことを食香と呼ぶ記録があることから明らかです。

また焼香の作法としては真前についたら、右手の親指、人差し指中指の三指で香を掴み、目の高さまでお香を押しそのまま炉中に一度くべ（禪宗の焼香は基本的に一回、線香も一本です）、次の参列者に真前を譲り合掌します。さらに合掌支えたまま自分の席に戻れば百点満点です。導師にお辞儀をするのは真前のお香は基本的に導師の準備したものでそれを拝借するからです。もしお辞儀をされるのでしたら焼香後の一回

だけで結構かと思えます。

※香飯には精進料理という意味もありません。

※葬儀法事の作法は宗派、地域、各寺院により様々です。焼香の仕方などは各山の住職の考え方もまちまちですので、他の寺院に参拝された際にはその寺の指導に従ってください。

墓地情報

本堂裏に新規墓地

- 東園寺では唯一の段差なしでお参りしていただける墓地です。
永代使用冥加金 ※ご希望の方はお早めにお申し込みください。分割払いも可能です。

70万円

(基礎工事は施工済み)

- 山頂付近にも10カ所以上の墓地がございます。

永代使用冥加金

35万円より

(納骨基礎付)





幼稚園だより

塩釜中央幼稚園
塩釜第二中央幼稚園



大運動会



大運動会

芋掘り遠足



芋掘り遠足



成道会お遊戯会



成道会お遊戯会



もちつき



もちつき



お店やさんごっこ



お店やさんごっこ



節分まめまき



節分まめまき



お茶のお稽古



涅槃会

寺庫紹介

渡唐天神

渡唐天神とは菅原道真公が宋に渡り無準師範禪師に参じたという伝説に基づき描かれるようになったものです。宋より帰国し、九州博多の崇福寺に住した京都東福寺開山円爾弁円禪師の夢枕に、あるとき道真公が現れ禪の教えを請いました。円爾禪師は自分の師匠である無準師範禪師を師とするよう薦めたところ、道真公はすぐさま入宋し、無準禪師に参禅し伝法の証として袈裟を授かったというのです。頭には儒教の冠、身には道教の道服を着た道真公が梅を一枝持ち、腰には無準禪師より授かった袈裟が入った袋をさげ、道服を着ているにもかかわらず足元を見ると日本の足袋を履いています。菅原道真公と無準禪師という歴史的には有り得ぬ二者の邂逅ですが、このような形態で道真公が描かれるようになった経緯は、一説は菅公を祀る北野天満宮に対して禅宗の優位性を示すために造られたという説、また儒教、道教、禅、神道が一つの教えであることを表したものであるという説等々があげられます。



当山所蔵 渡唐天神

当山所蔵の渡唐天神は近世妙心寺派の傑僧大愚宗築禪師の賛を伴うものです。五山派の東福寺より起こった渡唐天神の伝説

ですが、江戸初期には歌会などの席の掛け物として、欠かせぬものとなります。大愚禪師は瑞巖寺中興開山雲居禪師と同時期の方で、豪放な家風で知られる禪僧です。およそ漢詩にも天神様にも縁の薄い大愚禪師が着賛をしているのを見ても、渡唐天神の広範なる普及と天神様の絶大な人気を知らされる資料です。また賛文の内容は観音様〓天神様〓道真公（延喜の忠臣）という当時の信仰を背景としたものであります。

花祭りの夕

参加者募集／平成十六年四月八日午後六時三〇分より
 参加会費 大人／三、〇〇〇円
 学生／一、〇〇〇円（幼稚園児も含む）

◆みんなのお墓一釈子塔◆

- ・ 仏教徒であれば誰でも納骨できる。
 （他寺で葬儀をされた方も納骨できます）
 墓地を建てる必要がない。墓地建立、墓地取得に比べて費用がかからない。
- ・ 歴代住職の墓地も兼ねているので、寺が存在する限り永代供養される。
- ・ 配偶者が無い場合には維持費も不要。
 （配偶者が居られる場合には配偶者存命中は維持費年間5,000円が必要です。）
 納骨永代供養150,000円、花園会入会者は100,000円

坐禅会

時／毎週日曜日・朝7時
 所／東園寺本堂

宗教法人 東園寺 〒985-0026 塩釜市旭町4-1

学校法人 東園寺学園 〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51

代表役員 千坂成也 理事長 千坂秀也 花園会・会長 阿部久壽

022(362)0777 寺務所
 022(362)8651 中央幼稚園
 022(365)5616 第二中央幼稚園
 022(364)4444 FAX
 022(356)2933 ザ・ゼンクラブ